

# 水稲年特資料

## トビイロウンカ・セジロウンカ生態と今後の対策について

J A あいち三河 営農企画部・営農販売部

今年の状況とお知らせ

令和2年度水稲栽培につきましては、ウンカの被害が管内において多発した事により、ミネアサヒやあいちのかおりに甚大な被害をもたらし、収量低下の要因となりました。生産者からの相談に対して早めの刈り取りと、被害が大きい圃場では、農業共済への連絡をお願いしてまいりました。

今回、ウンカの生態等についてお知らせしますので、次年度の作付けの参考にしてください。J A のホームページにおいても今後、稲の病虫害情報を掲載させていただきますので、ご活用いただければと思います。

### ◇生態

トビイロウンカ・セジロウンカ（以降ウンカ類とする）は、国内では越冬できず、梅雨時期6月～7月に飛来し稲のみに寄生します。

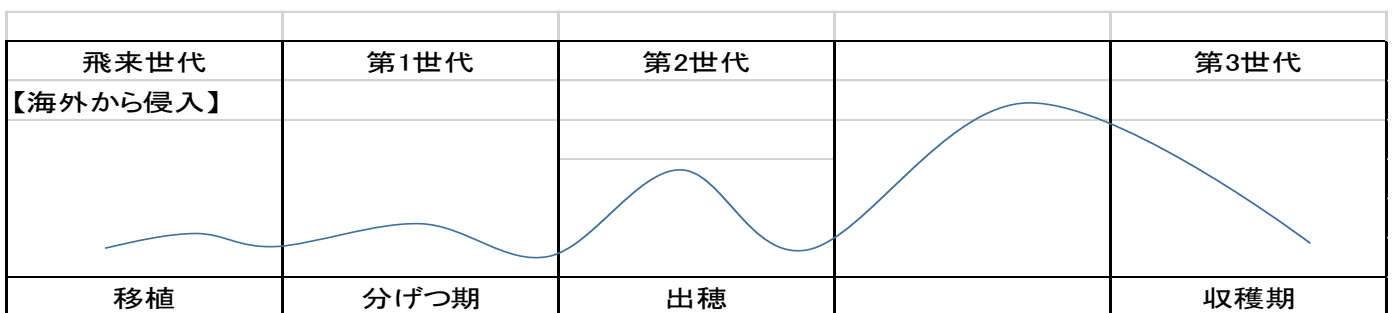
主に東シナ海で発生する南西風（下層ジェット気流）（以降ジェット気流とする）に運ばれて、およそ1日～1日半をかけて中国大陸（ベトナム北部からタイや中国を經由）から九州等の西日本に到達します。

### ○トビイロウンカ

被害は飛来した成虫の**第2世代、第3世代**の幼虫や成虫によって、坪枯れを引き起こします。温度が高いほど成育が早いため、夏の気温が高い時期は世代（卵から成虫まで）を繰り返すのに1か月もかかりません。イネの株元に集団で加害します。秋ウンカと呼ばれています。

増殖した虫がイネを吸汁し、吸汁害が起こります。トビイロウンカの場合、**生息密度が最も高い部分から坪状に枯れ始め、枯れ込みは次第に周辺部へと広がっていきます。**

### ◇トビイロウンカ発生パターン（近年）



### ○セジロウンカ

6月から7月頃に飛来した**第1世代**が問題となります。イネの水分や養分を吸汁するため、飛来数が多い年には、**出穂期前のイネの生育が悪くなり、圃場全体が黄化**します。また、ウイルス病であるイネ南方黒すじ委縮病を媒介します。イネの出穂以降の圃場への定着性が弱いため、収穫期に近づくると、圃場から飛び出してしまいます。夏ウンカと呼ばれています。



水田の被害状況

成虫・株元

#### ◆今後の対策について、被害発生圃場について

発生原因については、中国大陸からジェット気流などで飛来したウンカ類が山等の障害物に遮られ付近の水田で発生し拡大したと推測されます。本年はトビイロウンカによる被害が甚大でありましたが、令和3年度のウンカ類の飛来は現状では予測できず、いつ発生するかわからない状況ですので、JAのホームページへ予察情報を掲載しますので参考にしてください。また、被害発生を考慮し農業共済への加入もご検討ください。

次年度の水稲栽培・防除については、農業改良普及課またはJA各営農センターに相談してください。

#### 問合せ先【水稲栽培全般】

西三河農業改良普及課 岡崎駐在室 53-1552

JA あいち三河 本店営農センター 55-2994

東部営農センター 47-3169

幸田営農センター 63-2683

額田営農センター 82-3002

#### 【農業共済】

愛知県農業共済組合 0566-77-3220